

特集

びんリユース普及にチャレンジ!

容器包装廃棄物の抑制、環境負荷の低減、循環型社会の形成のために、強く求められているびんリユースの普及拡大。

現在、新しいびんリユースの在り方を目指して、様々な取組みが展開されています。

リユースできる唯一の容器でありながら、減少の一途をたどっているリターナブルびん。

平成21年のリターナブルびんの使用量は133万トンで、10年間で半分に以下に減少しています。また3R推進団体連絡会が実施した「2011年度消費者の意識と行動実態調査」では、リターナブルびんが使用されていることの認知度について、酒類・宅配牛乳は約7割に達していますが、実際に利用となると酒類は2割程度で宅配牛乳は1割弱という結果が出ました。

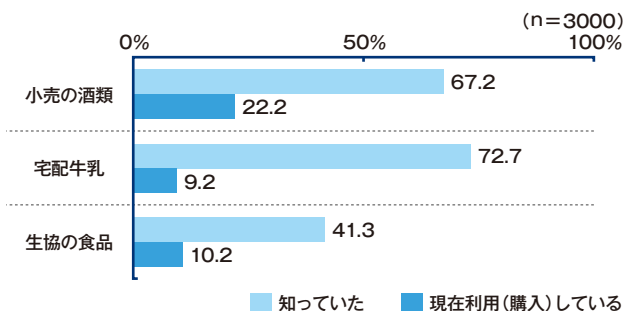
リターナブルびんの減少を招いた要因としては、核家族化や女性の社会進出などの社会構造の変化やスーパー・CVS主体の流通構造への変化などがあげられています。リターナブルびんの減少に歯止めをかけるためには、このような社会の状況を踏まえながら、消費者にびんリユースの大切さをアピールして、新たなリユースシステムを早急に構築していくことが強く求められます。

「びんリユース推進全国協議会」の設立のほか、様々なびんリユースの普及活動が展開されている。

現在、びんリユースが衰退している状況に対応して、行政をはじめ事業者、関係団体等により、打開策を見出すための様々な活動が展開されています。環境省では、本年2月より「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を6回にわたり開催。来年にかけて、4つの地域で「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」を実施し、その成果をまとめることになっています。また、びんリユースに係る主体が情報を共有化して連携を取ることを目的に、「びんリユース推進全国協議会」が設立されました。当協議会を中心に、新たなリユースモデルの構築を目指しています。

今回の「びんの3R通信」では、びんリユース推進に向けて積極的に取り組んでいる事例として、山梨県と九州地区をピックアップし、その活動内容を紹介します。

■ ガラスびんのリユース認知・利用状況



容器包装3Rに関する消費者意識調査(3R推進団体連絡会)より



▲ びんリユース推進全国協議会設立総会

山梨県

リユースびん推進

「やまなしエコライフ県民運動」の一環として、リユースびんを推進する取組みを県全体で展開。

リユースびん入りの商品を販売するとともに、そのあきびんを回収する店舗を登録してアピール。

都道府県としては全国で2番目にレジ袋の無料配布中止を実践するなど、環境に対して先進的な取組みを展開している山梨県では、昨年「やまなしエコライフ県民運動」をスタートさせました。この運動は、県民一人ひとりが運動への参加を通して、自らの生活行動を見直し、環境にやさしいライフスタイルへ転換することにより、県民共有の長期ビジョンである「CO₂ゼロやまなし」を実現していくことを目的としています。運動の内容は、マイバッグ・マイはし・マイボトル・リユースびん・エコドライブ・緑のカーテン・環境家計簿といった7つのエコ活動を推進するもので、いずれも県民が身近にできるアクションです。

その中のひとつ、リユースびん運動では、一升びん・ビールびん・牛乳びんなどのリユースびん入りの商品を販売するとともにそのあきびんを回収する店舗を、リユースびん推進店として登録。県のホームページで、すべての登録店を閲覧でき、回収するリユースびんの種類・回収の条件・店内の回収場所などを確認できます。この取組みについて県環境創造課の担当者は、「リユースとリサイクルの違いを十分に理解していない方もいるが、この運動によりびんがリユースされる素晴らしいシステムが認知され、多くの方に活用してもらいたい」と、県民のアクションに期待しています。



▲「やまなしエコライフ県民運動」を告知するちらし

●やまなしエコライフ県民運動 <http://www.pref.yamanashi.jp/kankyo-sozo/ecolife.html>

取材協力:山梨県びん商組合 山梨県森林環境部環境創造課

酒販店やスーパーなど、650の店舗が登録。リユースびん推進店の目印は緑色のステッカー。

2011年10月末現在、リユースびん運動の取組みに賛同し、積極的に推進する参加団体として登録されているのが、企業・事務所、官公庁など69団体。リユースびん推進店は650店舗が登録されています。各店舗の店頭にはステッカーが貼られ、目印となっています。



当初、推進店の募集については、担当者が県の小売酒販組合連合会や牛乳メーカーの支社などに、積極的に直接出向き、協力を求めました。さらに県の広報誌、新聞広告、テレビの広報番組等を活用して広く推進店を募るとともに、県民にも運動の内容をアピールしました。



▲リユースびん推進店に貼られているステッカー

運動によるリユースびんの認知度アップで、行き場のないびんがなくなることが望まれる。

このリユースびん運動は、小売店にリユースびんを戻そうというのですが、県内の市町村では、自治会の集団回収や自治体の資源物回収などの方式でリユースびんが回収されている状況もあります。各地域のそれぞれのシステムが上手く機能して、さらにリユースびん運動により県民のエコライフ意識が高まり、リユースびんの認知度がアップして、行き場のないびんがなくなることが望まれます。



株式会社 依田酒店 社長 依田 浩毅氏

私のお店では、お客さまの利便性を考えて、リユースびん回収の窓口になることが義務だと思っています。

酒屋の家に育った私は、こどもの頃からずっと、お酒のびんはすべてくり返し使われているという意識があり、実はあきびんを酒屋に戻し、そのびんをびん商が回収するという仕組み自体を知らない人がいるという点が、不思議なことでした。近年、流通の大きな変化により、お酒をスーパーや量販店にクルマで買いに行く人が増え、酒屋と地域住民のつながりが希薄になり、あきびんを酒屋に持ち込みにくくなっているのかもしれません。私のお店では、一升びん以外に900mlびん、750mlびん、300mlびんなど、どんなびんも引き取ります。お客さまの利便性を考えて、リユースびん回収の窓口になることが義務だと思っています。

今回の山梨県のリユースびん運動は大賛成で、ステッカーを貼ってアピールするとともに、日々のお客さまとの会話の中で、あきびんを引き取ることを伝えて、リユース運動の役に立って行こうと考えています。この運動は、県民へ広く啓発することがポイントだと思います。各地域の町内放送なども利用して、わかりやすくアピールしていくことも大切なのではないでしょうか。



▲一升びんが並ぶ依田酒店

●依田酒店 <http://www.yodasaketen.co.jp>



環境省

焼酎びんリユース推進

「九州の焼酎は中身も美味しいしボトルもエコ」

鹿児島を中心に焼酎びんリユースの普及拡大をめざす。

消費者にリユースびんをアピールするために、シンポジウムを開催し環境フェアに出展。

環境省が、平成15年度・16年度に採用した「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」から約5年が経過した平成21年度・22年度に、地域色を出すため九州地方環境事務所では、焼酎びんリユースを推進する新たな事業を展開しました。今回の取り組みでは、一升びん・900mlびん・720mlびんについて丸正もRマークもこだわることなく、全般的な普及拡大をめざしました。

取組みとしては、学識者・酒造組合・酒販組合・びん商・消費者団体・行政・事業者など、幅広い関係者で構成される「焼酎リユースびん推進会議」を立ち上げ、リユースびんの導入推進方策を検討する場を設置。また「リユースびん推進シンポジウム」を開催したり、「かごしま環境フェア」に出展しリユースびんに関する展示やクイズを行うなど、消費者への普及啓発も実施しました。



▲「かごしま環境フェア」のイベント



▲リユースびんに関するクイズの景品

●九州地域におけるリユースびん推進事業 <http://kyushu.env.go.jp/recycle/reuse.html> 取材協力：環境省 九州地方環境事務所

黒糖焼酎の産地、奄美地域におけるリユースびん推進の取組みをバックアップ

今回の焼酎びんリユースの推進事業では、取組みの一環として、奄美地域のエコマネー運営委員会が立ち上げたエコマネー事業に対し、リユースびん回収の効率化と運搬時の不良率の低減を図る目的で、回収容器(P箱)を提供しました。支援内容は一升びん用(6本が)500ケース、中容量用(12本が)500ケース、300ml用(20本が)250ケースとなっています。



▲エコマネー事業に提供したP箱

新たなびんリユースシステムの構築に向けて、平成23年度に九州で実施される実証事業を支援

現在、九州地区では、びんリユースシステムの構築に向けた実証事業が2件進行中で、環境省が支援しています。一つは全国展開している酒販店で丸正900mlびんを回収し、びん商が洗浄・検査して、鹿児島の酒造メーカーに戻すシステムを構築する事業。もう一つが福岡を中心とした九州全域で、酒販店や飲食店からRマークびんを回収してリユースするシステムを構築する事業で、その成果が期待されています。

特定非営利活動法人 ユーアイ自立支援の会

障害者の就労支援と地域の環境保全の一環として、奄美大島全域でびんのリユース活動を展開。

集合住宅・酒販店・料飲店などからびんを回収。手作業で洗びん・選別して、島内の酒造メーカーへ。

障害を持つ人たちの受け皿として平成13年に設立された特定非営利活動法人ユーアイ自立支援の会(以下ユーアイ)は、2年ほど前から奄美大島においてびんのリユース活動を展開。昨年、環境省の「NGO/NPO・企業環境政策提言」において「奄美群島びんリユース障害者参画活動」が優秀に準ずる提言として選考され、環境省のモデル事業では「五島内空きびんリユース・ネットワークづくり」を実施しました。

ユーアイは、市内の集合住宅・酒販店・居酒屋などから、リユースびんをP箱に入れて回収。施設内の作業員が1本1本丁寧に洗い、種類別に分けた後、島内の酒造メーカーへ売却しています。酒造メーカーは、きれいなびんが提供されチェックの手間が省けるということで、高く評価しています。

▲酒販店に提供したリユースびん返却の案内ツール



▲リユースびんの汚れを落とす作業員

島内におけるびんリユースの質と量を高めるため、新たなリユースシステムの構築を模索。

奄美大島におけるリユースびんの回収は、自治会や小・中学校の集団回収、スポーツ少年団の回収、エコマネー事業による回収、それにユーアイによる回収が加わった状況で実施されています。また料飲店では、小売・卸経由でびんを酒造メーカーに戻しています。いずれのびんも、酒造メーカーにおいて洗浄・検査してリユースしています。

このように様々なリユースびんのしくみがある中、使えるのにリサイクルに回ってしまうびんも存在しています。現在、ユーアイでは、島内におけるびんリユースの質と量を高めるために、NPO・行政・自治会・スポーツ少年団・子ども会などの連携による新たなリユースシステムの構築を模索しており、その一環として施設内に小型洗びん機の導入も進めています。



▲リユースびんを入れるP箱

- 特定非営利活動法人ユーアイ自立支援の会 <http://www6.ocn.ne.jp/~uaikai/you-ai.html>
- 五島内空きびんリユース・ネットワークづくりレポート http://www.re-style.jp/bknbr/rsr/76_1.html

取材協力：特定非営利活動法人 ユーアイ自立支援の会
奄美市市民部 環境対策課 株式会社 奄美大島開運酒造



3R推進団体連絡会主催の「第6回容器包装3R推進フォーラムin名古屋」を開催。

3R推進団体連絡会は、10月24日(月)・25日(火)、名古屋市の「ウィルあいち」において、「容器包装リサイクル法の成果と課題」をテーマに、「第6回容器包装3R推進フォーラムin名古屋」を開催しました。

初日の午前中は、名古屋市環境局ごみ減量部部長の挨拶の後、3R推進団体連絡会の活動報告、神戸大学の石川雅紀教授の基調講演があり、さらに名古屋市のごみレポート、経済産業省・環境省・農林水産省の政策についての報告がありました。午後は4つの分科会で、少人数の全員参加型で討議が行われた後、全体会でその報告がありました。翌日は、名古屋市が収集するプラスチック製容器包装の処理工程の見学会が実施されました。



▲ 全体会 (24日)



▲ 基調講演 (24日)

環境省が「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」第4回～第6回を開催。

飲料用びんのリユースについて、回収・再使用に係るシステムの維持と新たなシステムの構築を目的に、本年2月にスタートした「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」が、大手町スカイルームで、8月から10月にかけて第4～6回が開催されました。第4回(8月19日)では、過去3回に引き続き、関連団体、事業者などからのヒアリングと質疑応答・意見交換を実施。第5回(9月26日)・第6回(10月26日)では、今後の展開方策の取りまとめ案の検討が行われました。



▲ 第6回の検討会

この検討会で得られた情報を活用しながら、「びんリユースシステムの構築に向けた実証事業」を4つの地域で実施します。来年3月に開催される検討会では、その成果が報告されることになっています。4つの実証事業は下記の通りです。

- **東日本復興支援「郡山市容器リユースモデル実証事業」**
郡山市容器リユース推進協議会(郡山市を中心に福島県全域)
- **丸正900mlびんのリユースシステム構築事業**
株式会社吉川商店(やまや店舗・全国28都道府県)
- **「十萬馬力新宿サイダー」の開発サポート事業**
びん再使用ネットワーク(東京都新宿区)
- **九州圏におけるびんリユースシステム構築事業**
Rびん推進九州プロジェクト(福岡地区)

環境省が、びんリユースの普及に向けて、郡山で「びんリユース推進シンポジウム」を開催。

「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」の一環として、11月14日(月)に実証事業実施地域のひとつである郡山市で、「びんリユース推進シンポジウム」が開催されました。

国際連合大学名誉副学長・東京大学名誉教授の安井至氏の「びんリユースと未来社会」をテーマにした基調講演の後、リユースびんに関する全国の取組事例と郡山モデルの紹介があり、パネルディスカッションではびんリユース普及に向け、様々な立場からの意見が交換されました。



▲ パネルディスカッション

びんリユース活動の支援や情報の共有化等を目的に、「びんリユース推進全国協議会」を設立。

9月29日(木)、新宿区のパルシステム連合会において、「びんリユース推進全国協議会」の設立総会が開催されました。びんリユース推進全国協議会では、各地域のびんリユース普及活動の支援と新規構築、びんリユースの将来を見据えた「中期的なロードマップ」の作成、びんリユース普及に向けた関係主体との連携促進・広報活動・情報発信などの取組みを進めていくことを主な目的としており、当協議会のウェブサイト「リターナブルびんナビ」の中で、その活動を紹介していきます。



▲ 設立総会後のレセプション

- **リターナブルびんナビ** <http://www.returnable-navi.com/>

当協議会ウェブサイトの、トップページとびんの大合奏をリニューアル。

3年ぶりに、当協議会ウェブサイトのトップページのビジュアル・イメージをリニューアルしました。ガラスびんがある生活シーンが朝から夜まで変化する様子をアニメーションで展開しています。またキッズサイトの「びんの大合奏」では、画面とピン笛の演奏曲目を新しくして、実際に演奏しているLaマーズの映像(YouTube)にもリンクをはりました。ぜひご覧ください!

- **トップページに「びんの大合奏」と「軽量化したびん入り商品」のバナーを新設しましたので、ご利用ください。直接そのページに入れます。**



▲ トップページ



▲ びんの大合奏ページ

- **びんの大合奏ページ** <http://www.glass-recycle-as.gr.jp/child/06.html>